

第22回 Re-Seed セミナー

「2018 不動産投資市場の潮流

～転換点を迎えた不動産投資市場と新しい投資対象を考える～

A-3 新しい投資対象としてのインフラの魅力と課題を考える

■開催日時：2018.7.20（金）15：00～17：00

■講師：(株)三井住友トラスト基礎研究所 PPP・インフラ投資調査部

部長 主席研究員 福島 隆則 氏

〈略 歴〉早稲田大学大学院ファイナンス研究科修了（MBA）。

内外の投資銀行でデリバティブやリスクマネジメント業務に従事し、現職ではインフラ投資に係るコンサルティング、アドバイザー、リサーチ業務、自治体向けの公的不動産（PRE）やPPPコンサルティング業務に従事。

内閣府「民間資金等活用事業推進委員会」専門委員、経済産業省「アジア・インフラファイナンス検討会」委員、国土交通省「不動産リスクマネジメント研究会」座長、国土交通省「インフラリート研究会」委員、国土交通省「不動産証券化手法等による公的不動産（PRE）の活用のあり方に関する検討会」委員など。早稲田大学国際不動産研究所招聘研究員、日本証券アナリスト協会検定会員（CMA）。

著書に「よくわかるインフラ投資ビジネス」（日経BP社・共著）、「投資の科学」（日経BP社・共訳）など。

■講座概要：長く続いた低金利で運用難という環境の中、世界では、特に年金基金や保険会社といった長期スタンスの投資家にインフラ投資は選好され、既に一定のポジションを確立するに至っています。日本の投資家もこうした動きに同調し、インフラ投資を始めたところも少なくありませんが、ほとんどが海外のインフラへの外貨建ての投資で、国内のインフラへの円貨建ての投資は一部の再生エネルギー投資を除き限定的となっていました。しかし昨年末に、国内のエネルギー、交通、通信・ユーティリティ分野のインフラ案件に円貨建てで投資する大手商社系の総合型インフラファンド（LPS）が誕生するなど、新たな動きも出始め、今後の国内インフラ投資市場の発展と確立に期待が高まっています。

このセミナーでは、PPPを含むインフラ投資ビジネスに詳しい講師から、インフラ投資の概要と魅力、そして主に国内インフラ投資市場の将来性と課題を解説していただきました。

